

4 単元について

(1) 子どもについて

子どもたちは3年生になって、「きつつきの商売」で叙述を手がかりに登場人物の心情を想像して音読劇で表現する学習を、「海をかつとばせ」でファンタジー作品の構造に着目し、登場人物の人物や気持ちを想像して自分と比較しながらキャラクターカードにまとめる学習を行っている。これらの学習を通して、大切な言葉や文を見つけて出そうという姿勢や、それらに着目して登場人物の人物や気持ちを想像する力が育ってきている。また、音読劇を見合うことやキャラクターカードを紹介し合う活動を通して、一人の考え方や表現の仕方に違いのあることに気付くこともできた。しかし、場面のつながりや登場人物の置かれている状況を読まえた上で気持ちの移り変わりを想像したり叙述を根拠に自分の考えを適切に表現したりする力は十分ではない。

また、昨年12月に行ったCRTの結果では、「読むこと」領域の得点率が59.8%、全国比99%となっており、小領域「文学的な文章を読むこと」においては、得点率58.3%、全国比109%となっていた。しかし、小問内容「大事な言葉の読み取り」は0%、「行動の読み取り」「登場人物の読み取り」はいずれも50%以下となっている。このことから、物語の場面の様子や内容を、登場人物の行動を中心に読み取る力が十分ではないことが伺える。

子どもたちは、昨年度から複式学級を経験しており、複式での授業の流れの大体を理解している。今年度は、主に間接指導時において、学習リーダーを中心に自分たちで学習を進めることを行っているが、グループ学習を円滑に進める力が十分に行っているとは言えない。また、学習に支援を要する子どももおり、非常に時間がかかったり十分な考えの交流が行えなかったりすることも多い。

(2) 学習材について

中心学習材「ちいちゃんのかげおくり」は、「かげおくり」という遊びを題材にして書かれた戦争への静かなレジスタンスである。ちいちゃんの見た「家族いっしょのかげおくり」は、ちいちゃんの家族を求めてやまない心の象徴であり、永遠の平和を願う心の象徴でもある。ちいちゃんのような、たくさんの命の犠牲の上に成り立っている今の生活。平和の尊さが心に響く作品である。この教材は5つの場面から構成されており、時間の経過に従ってちいちゃんを巡る出来事がはきりしている。場面のつながりがとらえやすい。また、「家族みんな」と「ひとりぼっち」のかげおくり、戦中と戦後の平和な町の様子などを対比させることにより、場面の移り変わりをとらえながら読み深めることもできる。また、会話文やその前後にある行動や様子を表す言葉からちいちゃんの心情を想像したり、ちいちゃんの視点から描かれている叙述を自分と重ね合わせながら読み取りすることで、登場人物の気持ちの変化がとらえやすくなっている。

補助学習材「まちんと」は松谷みよ子の戦争絵本であり、中心学習材「ちいちゃんのかげおくり」とは、戦争によって幼い少女が命を失うことや戦中と戦後の場面設定などの共通点がある。また、「ちいちゃんのかげおくり」よりも短く、色鮮やかな挿絵により各場面の情景を色でイメージすることも容易になっている。そのため、中心学習教材「ちいちゃんのかげおくり」を学習する前段階で「まちんと」のモデルとして扱う。

4 単元について

(1) 子どもについて

子どもたちは4年生になって、「白いぼうし」で叙述を手がかりに登場人物の気持ちの変化や人物の想像し音読劇で表現する学習を、「ごんぎつね」で登場人物の気持ちの変化や情景を想像してリーダーフレットにまとめる学習を行っている。これらの学習を通して、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の行動や様子、会話文に着目して気持ちの変化を想像する力が育ってきている。また、各自の読み取ったことや想像したこととを交流し合いながら音読劇の台本を仕上げていく活動やリーダーフレットを紹介し合う活動を通して、一人一人の考え方や表現の仕方に違いのあることに気付くこともできた。しかし、情景に着目して登場人物の人物を想像したり、題名に込められた作者の思いや作品の主題にまで考えを深めたりする力は十分ではない。

また、昨年12月に行ったCRTの結果では、「読むこと」領域の得点率が68.5%、全国比119%となっており、小領域「文学的な文章を読むこと」においても、得点率60.3%、全国比107%となっていた。しかし、小問内容「文中の語句の内容理解」「文脈に合う語」「叙述に即した読み取り」の3問では、いずれも正答率が50%となっている。このことから、物語の全体の全体をつかんだ上で、前後の文脈にも注意しながら書かれている内容を読み取ったり、想像したりする力が不十分であることが伺える。

子どもたちは、2年生の時から複式学級を経験してきており、昨年度までの経験から学習リーダーを中心に自分の考えを出し合ったり、学び合ったりすることができようようになってきている。しかし、たった4人ではあるが作業の早さや理解力に個人差が見られ、特にも話すこと・書くことを苦手としている子どももいるため、グループ学習が滞ってしまいう場面が見られる。

(2) 学習材について

中心学習材「一つの花」は、ゆみ子に対する両親の思いが、「一つだけ」というキーワードを軸に登場人物の行動として表現され、出来事が展開する。そして、戦争という過酷な状況の中で懸命に生きるゆみ子の家族の姿を通して、悲しみを乗り越えて生き続ける人間の強さと美しさ、そして家族の絆が主題として描かれている。この作品は直接的に反戦を叫んでいないが、戦争の中で家族の絆を断ち切れられ、さいなまれる人の心を、平和の中で傷痕を残しながらも癒やされていく様子を、戦中と戦後の場面の対比により読み取ることができる。また、語り手が外側から語ることで読み手に印象づける表現や疑問の語りで読み手に考えさせせる表現、様々な場面で用いられる比喩やクイズで使われているダッシュはイメージの広がりをもち、登場人物の様々な思いを想像することができ。さらに「一つの花」という題名が象徴する主題を巡って、様々な角度から着目することができ、考え方や感じ方の違いへの気づきを促すこともできる。

補助学習材「すみれ島」は、中心学習材「一つの花」と同じ今西祐行の戦争文学作品である。花に思いを込めていることや戦中と戦後の場面設定など、「一つの花」との共通点が多く、よく似た主題・構成・表現方法が用いられている。また、「一つの花」よりも短く、主題が読み取りやすい。そのため、中心学習材「一つの花」を学習する前段階で「すみれ島」のモデルとして扱う。

(3) 指導について

本単元は、同単元異学習材による学習指導を行い、3、4年生ともに複数学習材で表現するパターンから「B2…3次において補助学習材で表現するパーツを2次で作る」で進めていく。この指導過程をとることで、中心学習材で身につけた力を即座に適用しながら自分の選んだ物語の「ずきんカード」のパーツ作りを行うことができる。そのため、子どもたちに何のためにその学習活動を行うのかを明確にさせることができ、また毎時間パーツを作り上げていくことで単元のゴールに向かう意欲を膨らませていくこともできる。

指導にあたっては、一次で教師の作成した「まちんと」「すみれ島」の「ずきんカード」を紹介したり読み聞かせを行ったりすることにより、自分の選んだ物語を「ずきんカード」によって紹介し合うという言語活動に対しての意欲をもてるようにする。そして、より主体的な学習になるように、「ずきんカード」で物語を紹介するためにどのような力が必要かということと子どもたちと一緒に考え、学習計画を立てる。その後、関連図書を読む時間を確保し、じっくりと物語と向き合わせることで心に響いた一冊の「マイブック」を決定できるようにする。また、3年生は戦争と平和について書かれた物語に接する初めての機会というところもあり、時代背景や用語などについての学習を行う。

続く2次では、3、4年生ともに中心学習材「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」を読み、身につけた力を使って「マイブック」を同様に読むという学習をくり返していく。そして毎時間の最後には、「ずきんカード」のパーツを作り上げていく。その際には、複式であることの利点を生かすこと、4年生の学習を先行させることで、3年生にとっては4年生の学習成果を自分たちの学習の手がかりにしたり生かしたりできるように、4年生にとっては自分たちの学習成果が3年生の学習の手がかりになったり生かされたりしているのだという満足感をもたせられるようにしていく。また同単元異学習材の学習指導のため、同様の学習内容が多いが、4年生には字数制限などの負担をかけることで差別化を図っていく。そして3次では、2次で作ってきたパーツをまとめて「ずきんカード」を仕上げ、紹介し合う活動を行う。その際には、心に響いた叙述とその理由、戦争と平和に関して感じたことと考えたことを中心に感想を伝え合うことで相互評価を行い、一人一人の感じ方の相違点に気づかせたり、単元の学習で身につけた力を自覚させたりしていく。

授業の形態に関しては、単元全体を通して3、4年生間の学習交流を採り入れていく。自分たちの学習の成果を互いに紹介し合うことを前提に学習を進めることで、子どもたちの意欲を引き出し、活動を盛り上げていきたい。

5 単元の指導目標

- 戦争と平和について書かれた物語を繰り返し読んで心に響いた叙述を見つけたら、心に響いた理由を紹介し合ったりすることができる。(国語への関心・意欲・態度)
- 自分の心に響いた場面の様子の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を、行動や様子、会話を基に想像して読むことができる。(読むことウ)
- 登場人物と自分を比較したり戦争や平和について考えたりしたこととをまとめたリーフレットを紹介し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。(読むことオ)
- 戦争や平和について書かれた物語を読み、自分が選んで紹介したいと思う本について、心に響いた叙述とその理由を考えながら読むことができる。(読むことカ)
- 行動や様子を表す言葉や会話文中の言葉から、登場人物の性格や気持ちをとらえることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア))

6 単元の評価規準

- 紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読むとうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 自分が選んだ本のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格や気持ちの変化をとらえて読んでいる。(読む能力ウ)
- 物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(読む能力オ)
- 相手が知らない本や、自分が選んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。(読む能力カ)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(言語についての知識・理解・技能イ(ア))

5 単元の指導目標

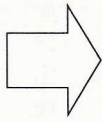
- 戦争と平和について書かれた物語を繰り返し読んで心に響いた叙述を見つけたら、心に響いた理由を紹介し合ったりすることができる。(国語への関心・意欲・態度)
- 自分の心に響いた場面の様子の移り変わりや登場人物の気持ちの変化、登場人物同士の関係を、行動や様子、会話を基に想像して読むことができる。(読むことウ)
- 題名に込められた作者の思いや戦争や平和について考えたことをまとめたリーフレットを紹介し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。(読むことオ)
- 戦争や平和について書かれた物語を読み、自分が選んで紹介したいと思う本について、心に響いた叙述とその理由を考えながら読むことができる。(読むことカ)
- 行動や様子を表す言葉や会話文中の言葉から、登場人物の性格や気持ちをとらえることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア))

6 単元の評価規準

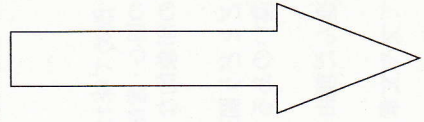
- 紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読むとうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 自分が選んだ本のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格や気持ちの変化をとらえて読んでいる。(読む能力ウ)
- 物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(読む能力オ)
- 相手が知らない本や、自分が選んで紹介したいと思う本について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。(読む能力カ)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(言語についての知識・理解・技能イ(ア))

段階と主な学習内容

一次
補助学習材「まちなんと」の「ずきんカード」を見て学習の見通しをもち、「マイブック」を選定する。(3時間)



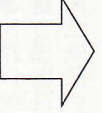
二次
中心学習材「ちいちゃんのかけおくり」を読んで身につけた力を使って「マイブック」を読み、「ずきんカード」のパーツを作る。(9時間)



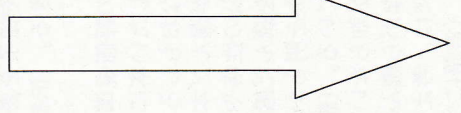
〔 〕 評価規準 () 評価方法	○ 学習活動
<p>[関] 読み聞かせを聞いたり、「ずきんカード」のモデルを見たりすることで学習の見通しをもち、活動に意欲的に取り組もうとしている。(観察、発言)</p> <p>[関] 戦争や平和について書かれた物語に興味をもち、進んで読もうとしている。(観察)</p> <p>[読カ] 自分が読み進めたい「マイブック」を見つけている。(観察、ワークシート)</p>	<p>① 補助学習材「まちなんと」の読み聞かせを聞いたり、「ずきんカード」のモデルを見たりして学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>② 関連図書を読み、時代背景や用語を調べる。</p> <p>③ 「ずきんカード」を作るために関連図書を読み、「マイブック」を決める。</p>
<p>[関] 各場面の情景を想像し、イメージカラーを考えようとしている。(観察、ワークシート)</p> <p>[読ウ] 叙述を基に想像して読み、台紙に使う各場面のイメージカラーを考えている。(発言、ワークシート、ずきんカード)</p>	<p>④ 中心学習材「ちいちゃんのかけおくり」を読み、物語の設定をとらえた上で全体を5場面に分ける。</p> <p>⑤ 各場面の叙述から想像した情景を色で表す。</p> <p>⑥ 「マイブック」を読み、物語の設定をとらえた上で全体を3～4の場面に分ける。各場面を読み、想像した情景を色で表す。 【パーツ1 台紙】</p>
<p>[関] 心に響いた叙述を見つれたり、その理由を考えたりしようとしている。(観察、ワークシート)</p> <p>[読ウ] 心に響いた叙述を見つれたり、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などを想像しながら心に響いた理由を考えたりしている。(発言、ワークシート、ずきんカード)</p>	<p>⑦ 中心学習材「ちいちゃんのかけおくり」を読み、自分の心に響いた叙述を見つける。</p> <p>⑧ 中心学習材「ちいちゃんのかけおくり」を読み、自分の心に響いた理由を考える。 【本時】</p>

段階と主な学習内容

一次
補助学習材「すみれ島」の「ずきんカード」を見て学習の見通しをもち、「マイブック」を選定する。(2時間)



二次
中心学習材「一つの花」を読んで身につけた力を使って「マイブック」を読み、「ずきんカード」のパーツを作る。(10時間)



〔 〕 評価規準 () 評価方法	○ 学習活動
<p>[関] 読み聞かせを聞いたり、「ずきんカード」のモデルを見たりすることで学習の見通しをもち、活動に意欲的に取り組もうとしている。(観察、発言)</p> <p>[関] 戦争や平和について書かれた物語に興味をもち、進んで読もうとしている。(観察)</p> <p>[読カ] 自分が読み進めたい「マイブック」を見つけている。(観察、ワークシート)</p>	<p>① 補助学習材「すみれ島」の読み聞かせを聞いたり、「ずきんカード」のモデルを見たりして学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>② 「ずきんカード」を作るために関連図書を読み、「マイブック」を決める。</p>
<p>[関] 各場面の情景を想像し、イメージカラーを考えようとしている。(観察、ワークシート)</p> <p>[読ウ] 叙述を基に想像して読み、台紙に使う各場面のイメージカラーを考えている。(発言、ワークシート、ずきんカード)</p>	<p>③ 中心学習材「一つの花」を読み、物語の設定をとらえた上で全体を4場面に分ける。</p> <p>④ 各場面の叙述から想像した情景を色で表す。</p> <p>⑤ 「マイブック」を読み、物語の設定をとらえた上で全体を3～4の場面に分ける。各場面を読み、想像した情景を色で表す。 【パーツ1 台紙】</p>
<p>[関] 心に響いた叙述を見つれたり、その理由を考えたりしようとしている。(観察、ワークシート)</p> <p>[読ウ] 心に響いた叙述を見つれたり、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などを想像しながら心に響いた理由を考えたりしている。(発言、ワークシート、ずきんカード)</p>	<p>⑥ 中心学習材「一つの花」を読み、自分の心に響いた叙述を見つける。</p> <p>⑦ 中心学習材「一つの花」を読み、自分の心に響いた理由を考える。</p>

〔言イ (ア)〕 行動の様子を表す言葉や会話文の言葉から、登場人物の性格や気持ちを想像している。
(発言, ワークシート, ずきんカード)

⑨ 「マイブック」を読み、自分の心に響いた叙述を見つめる。
【パーツ2 叙述】

⑩ 「マイブック」を読み、自分の心に響いた理由を考える。
【パーツ3 理由】

〔関〕 登場人物と自分を比較し、共通点や相違点を考えようとしている。(発言, ワークシート)
〔読ウ〕 根拠とした文を引用しながら登場人物と自分を比較し、共通点や相違点を考えている。
(発言, ずきんカード)

〔言イ (ア)〕 行動の様子を表す言葉や会話文の言葉から、登場人物の性格や気持ちを想像している。
(発言, ずきんカード)

〔関〕 これまでに作ったパーツを組み合わせて「ずきんカード」を仕上げようとしている。
(観察, ずきんカード)
〔読オ〕 戦争や平和について、自分が感じたことや考えたことを書いていく。(発言, ずきんカード)

〔関〕 単元で身につけた力を確認し、次の学習への意欲をもとうとしている。(発言, ワークシート)
〔読オ〕 「ずきんブック」を紹介し合い、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気づいている。(発言, ワークシート)

⑧ 「マイブック」を読み、自分の心に響いた叙述を見つめる。
【パーツ2 叙述】

⑩ 「マイブック」を読み、自分の心に響いた理由を考える。
【パーツ3 理由】

⑩ 中心学習材「一つの花」を読み、登場人物同士の関係をとらえる。

⑪ 「マイブック」を読み、登場人物同士の関係をとらえる。
【パーツ4 人物相関図】

⑫ 中心学習材「一つの花」を読み、花に込められた思いから題名のつけられた理由をとらえる。

⑬ 戦争と平和について書かれた物語を読んで、自分が感じたことや考えたことを書く。
イラスなどの工夫をしながら「ずきんカード」を仕上げる。
【パーツ5 感想】

⑭ 「ずきんカード」を紹介し合い、単元の学習をふり返る。

〔言イ (ア)〕 行動の様子を表す言葉や会話文の言葉から、登場人物の性格や気持ちを想像している。
(発言, ワークシート, ずきんカード)

〔関〕 登場人物同士の関係を考え、図に表そうとしている。
(発言, ワークシート)
〔読ウ〕 行動を表す言葉や会話文の言葉から登場人物の思いをとらえ、登場人物同士の関係を考えていく。(発言, ずきんカード)

〔言イ (ア)〕 行動の様子を表す言葉や会話文の言葉から、登場人物の性格や気持ちを想像している。
(発言, ずきんカード)

〔関〕 花に込められた思いを考えようとしている。(ワークシート)
〔読オ〕 題名がつけられた理由を考えていく。(ワークシート)

〔関〕 これまでに作ったパーツを組み合わせて「ずきんカード」を仕上げようとしている。
(観察, ずきんカード)
〔読オ〕 戦争や平和について、自分が感じたことや考えたことを書いていく。(発言, ずきんカード)

〔関〕 単元で身につけた力を確認し、次の学習への意欲をもとうとしている。(発言, ワークシート)
〔読オ〕 「ずきんブック」を紹介し合い、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気づいている。(発言, ワークシート)

三次
「マイブック」の「ずきんカード」を仕上げ、学習の紹介し合い、学習のまとめをする。
(2時間)

三次
「マイブック」の「ずきんカード」を仕上げ、学習の紹介し合い、学習のまとめをする。
(2時間)

8 本時の指導 (8 / 14 時)

(1) 目標

「ちいちゃんのかげおくり」を読み、叙述から場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を想像し、自分の心に響いた理由を考えることができる。

(2) 授業の仮説

国語科の「読むこと」領域において、次のような手だてを行うならば、論理的に思考し、表現する力を身につけた子どもを育てることができるであろう。

ア 1 単位時間の授業内において、論理的思考力を用いて思考したり表現したりする言語活動を設定すること

(7) 論理的思考力を用いて思考する場の設定

自分の選んだ叙述の心に響いた理由を、登場人物の気持ちの変化を中心に「くらべる力」を使ってまとめる場を設定すること。

(4) 目的や方法を明確にした学び合いの場の設定

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、自分の選んだ叙述の心に響いた理由をまとめるために、3 人組で話し合うグループ学習を設定すること。

8 本時の指導 (8 / 14 時)

(1) 目標

「マイブック」を繰り返し読み、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を想像しながら、自分の心に響いた叙述を見つけてることができる。

(2) 授業の仮説

国語科の「読むこと」領域において、次のような手だてを行うならば、論理的に思考し、表現する力を身につけた子どもを育てることができるであろう。

ア 1 単位時間の授業内において、論理的思考力を用いて思考したり表現したりする言語活動を設定すること

(7) 論理的思考力を用いて思考する場の設定

「マイブック」を読んで自分の心に響いた叙述を見つけ、選んだ理由を「たとえる力」を使って書いたり伝え合ったりする場を設定すること。

(4) 目的や方法を明確にした学び合いの場の設定

「マイブック」を読んで、「ずきんカード」で紹介する自分の心に響いた叙述を選ぶために、教科リーダーを中心に話し合うグループ学習を設定すること。

(3) 展開

段階	準備	支援 (○) と評価 (※)	学習活動・学習内容	形態
つかむ (3 分)	短冊黒板 ワグシート	○一人一人の心に響いた叙述が違ったことを確認する。 ○「ずきんカード」のモデルを見て、心に響いた叙述の理由をまとめたパーツを作ることを確認する。	1 前時の学習を想起する。 ・「ちいちゃんのかげおくり」を読み、心に響いた叙述を見つけたことを確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 ずきんカードを作るために、「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、心に響いた理由を考えよう。	一斉 (5 分)
ふかめる (35 分)	進め方揭示	○学習の目的や進め方、時間配分などを確認する。 ○前時に見つけた心に響いた叙述の前後の場面を読ませる。	3 学習の見直しをもつ。 (1) 学習の進め方を確認する。 (2) 「ちいちゃんのかげおくり」の音読をする。 ・微音読をする。	直接 (3 分) 間接 (3 分)

(3) 展開

段階	準備	支援 (○) と評価 (※)	学習活動・学習内容
つかむ (3 分)	短冊黒板 ワグシート	○場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化をもとに心に響いた理由をまとめたことを確認する。 ○「ずきんカード」のモデルを見て、心に響いた叙述のパーツを作ることを確認する。	1 前時の学習を想起する。 ・「一つの花」を読み、心に響いた理由を考えたことを確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 ずきんカードを作るために、「マイブック」を読んで、心に響いた理由をひびいたところを見つけてよう。 3 学習の見直しをもつ。 (1) 学習の進め方を確認する。 (2) 読みの視点を確認する。
ふかめる (35 分)	進め方揭示	○学習の目的や進め方、時間配分などを確認する。 ○「一つの花」の学習を想起させ、登場人物の行動や会話、場面の變化に着目していくことを確認する。	

<p>○登場人物の気持ちや場面の様子の変化を想像することを確認する。</p> <p>○前時に4年生がまとめた理由を確認する。</p>	<p>(3) 読みの視点を確認する。</p>	<p>4 「マイブックス」を読み、心に響いた叙述を見つめる。</p> <p>(1) 「マイブックス」を繰り返し読みながら、その理由を考える。</p> <p>・心に響いた叙述の理由を「たどる力」を使ってワークシートに書く。</p>	<p>付箋</p>
<p>本文紙板書</p> <p>○一人の子どもの叙述を例に全員で考えさせる。</p> <p>○「くらべる力」の言葉「それに対して」を使って書かせる。</p> <p>○心に響いた叙述とその前後の情景や登場人物の気持ちを想像し比べさせる。</p>	<p>(2) 心に響いた叙述の理由を「くらべる力」を使ってワークシートに書く。</p>	<p>(2) 自分が心に響いた叙述を選ぶためにグループで交流し合う。</p> <p>・心に響いた叙述の理由を「たどる力」を使って発表し合う。</p> <p>・「ずきんカード」に書く心に響いた叙述を1つ決める。</p>	<p>○心に響いた叙述を見つけたら付箋を貼りながら読み進めさせる。</p> <p>○付箋を貼った中から2〜3つを選ばせる。</p> <p>○「たどる力」の言葉「なぜなら」を使って書かせる。</p> <p>※心に響いた叙述を見つけたら、その理由を考えたらしようとしている。(ワークシート)</p>
<p>○同じ「マイブックス」読んでいる3人組で話し合わせる。</p> <p>○理由がまとめられない子どもについては、グループで話し合っ考えてまとめたいようにさせる。</p> <p>※心に響いた叙述を見つたり、その理由を考えたりしようとしている。(発言、ワークシート)</p>	<p>(3) 自分が心に響いた叙述の理由をまとめるとめるためにグループで話し合う。</p> <p>・心に響いた叙述の理由を「くらべる力」を使って発表し合う。</p> <p>・「ずきんカード」に書く心に響いた叙述の理由をまとめるとめる。</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 一人一人の心に響いた叙述の理由を紹介し合う。</p>	<p>○教科リーダーを中心に交流させる。</p> <p>○友だちの発表を聞き「自分だったら」という視点で意見を発表し合い、1つに決める際の参考にさせる。</p> <p>○理由については次時に学び合うので、必ずしもまとめが必要がないことを指示しておく。</p>
<p>パーツ</p> <p>○「ずきんカード」のモデルや4年生のまとめたものを複数例示し、自分の書きまとめた形式を選択させる。</p> <p>○「くらべる力」の言葉「それに対して」や「たどる力」の言葉「だから」などをを使ってまとめさせる。</p> <p>※心に響いた叙述を見つたり、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変</p>	<p>(2) 「ちいちゃんのかげおくり」の「ずきんカード」のパーツを作る。</p> <p>・心に響いた叙述の理由を「くらべる力」と「たどる力」を使ってパーツにまとめる。</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 一人一人の心に響いた叙述を紹介し合う。</p> <p>(2) 「マイブックス」の「ずきんカード」のパーツを作る。</p>	<p>○紹介し合う際に、選んだ理由や交流の様子などについても発言させる。</p> <p>○「ずきんカード」のモデルや「一つの花」でまとめたものを例示して参考にさせる。</p> <p>※心に響いた叙述を見つたり、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変</p>

ひろげる (7分)	化などを想像しながら心に響いた理由を考えたりしている。 (ずきんカード)	一斉 (7分)	6 学習について交流する。 ・4年生のまとめを聞く。 ・「ちいちゃんのかげおくり」の心に響いた理由を紹介する。 7 本時の学習をふり返る。 ・自己評価を書く。 8 次時の学習について確かめる。	化などを想像しながら心に響いた理由を考えたりしている。 (発言、ずきんカード)	ひろげる (7分)
ひろげる (7分)	6 学習について交流する。 ・3年生のまとめを聞く。 ・「マイブック」の心に響いた叙述を紹介する。 7 本時の学習をふり返る。 ・自己評価をし、感想を書く。 8 次時の学習について確かめる。	6 学習について交流する。 ・4年生のまとめを聞く。 ・「ちいちゃんのかげおくり」の心に響いた理由を紹介する。 7 本時の学習をふり返る。 ・自己評価を書く。 8 次時の学習について確かめる。	○本時の学習を通してついた力を確認し評価する。 ○「マイブック」で心に響いた叙述を見つけたことを確認する。	○本時の学習を通してついた力を確認し評価する。 ○本時で見つけた心に響いた叙述の理由を考えるところを確認する。	自己評価カード

(4) 評価

評価場面	評価規準	十分満足できる	概ね満足できる	熟読する子どもへの支援
「ちいちゃんのかげおくり」を読み、心に響いた理由を考える場面。 【直接指導】 (発言、ワークシート)	心に響いた叙述を見つけたら、その理由を考えたりしようとしている。 (関・意・態)	心に響いた叙述とその前後の登場人物の気持ちや情景を想像し、比べながら理由を考えたり、友だちの心に響いた叙述の理由も考えたりしようとしている。	心に響いた叙述とその前後の登場人物の気持ちや情景を想像し、比べながら理由を考えたりしようとしている。	登場人物の気持ちや情景について、学びの手引きの「こんな言葉を使ってみよう」を参考に短い言葉で表させる。 前時に書いた4年生のまとめや「ずきんカード」のモデルを参考にさせる。
「ちいちゃんのかげおくり」の「ずきんカード」の心に響いた理由の場面。 【直接指導】 (ずきんカード)	心に響いた叙述を見つけたら、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などを想像しながら心に響いた理由を考えたりしている。 (読むことウ)	心に響いた叙述とその前後の登場人物の気持ちや情景を想像し比べながら理由を考え、論理的思考力の言葉を使いながらまとめている。	心に響いた叙述とその前後の登場人物の気持ちや情景を想像し比べながら理由を考えている。	書き方の「型」を提示し、その型に合わせてまとめさせる。 前時に書いた4年生のまとめや「ずきんカード」のモデルを参考にさせる。

(4) 評価

評価場面	評価規準	十分満足できる	概ね満足できる	熟読する子どもへの支援
「マイブック」を読み、心に響いた叙述を見つけたら、その理由を考えたりしようとしている。 (ワークシート)	心に響いた叙述を見つけたら、その理由を考えたりしようとしている。 (関・意・態)	十分に満足できる。心に響いた叙述に付箋を貼ったり、ワークシートに書き出したりしただ上、その理由も考えようとしている。	心に響いた叙述に付箋を貼ったり、ワークシートに書き出したりしただ上、その理由も考えようとしている。	「だれが何をしたところ」のように、登場人物の行動に着目させる。 「一つの花」の学習や「ずきんカード」のモデルを参考にさせる。
「マイブック」を読み、心に響いた叙述を紹介し合う場面。 【直接指導】 (発言、ずきんカード)	心に響いた叙述を見つけたら、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化などを想像しながら心に響いた理由を考えたりしている。 (読むことウ)	一人学びで見つけた心に響いた叙述や友だちの意見を参考にしながら「ずきんカード」に書く心に響いた叙述を決めたり、友だちの心に響いた叙述に意見を述べたりしている。	一人学びで見つけた心に響いた叙述や友だちの意見を参考にしながら「ずきんカード」に書く心に響いた叙述を決めていく。	「自分だったら」という視点で他の子どもに発表させ、それを参考にさせる。 「マイブック」を選んだ時の理由を想起させる。

「学習の進め方」 掲示

戦争と平和について書かれた物語を読んで、「ずきん」を伝えよう
三年 ちいちゃんのかげおくり あまん きみこ

ずきんカードを作るために、「ちいちゃんのかげおくり」
を読んで、心にずきんとひびいた理由を考えよう。

手がかり→登場人物の気持ち、場面の様子

くらぐる力

「ちいちゃんのかげおくり」
本文紙板書
(子どもたち一人一人の心
に響いた叙述にサイドラ
インを引いたもの)

- ・ 家族みんなのかげおくり。
- ・ 楽しい。うれしい。

それに対して

- ・ ひとりぼっちのかげおくり。
- ・ 悲しい。さびしい。

〔理由をまとめた例文〕

(5) 板書計画

戦争と平和について書かれた物語を読んで、「ずきん」を伝えよう
四年 一つの花 今西 祐行

ずきんカードを作るために、「マイブック」を読んで、
心にずきんとひびいたところを見つけよう。

手がかり→登場人物の行動や会話、場面の変化

だるる力

「マイブック」
の写真A

Aの心に響いた叙述
なぜなら

「マイブック」
の写真B

Bの心に響いた叙述
なぜなら

「マイブック」
の写真C

Cの心に響いた叙述
なぜなら

「マイブック」
の写真D

Dの心に響いた叙述
なぜなら